

## 第 5 学年国語科指導案

日 時 平成 20 年 9 月 5 日（金） 5 校時

学 級 遠野市立遠野小学校 5 年 2 組 2 3 名

会 場 合同教室（3 階）

指導者 太田 圭

共同研究者 佐々木 潤（綾織小学校）

大谷 寛子（附馬牛小学校）

### 1 単元名 伝え合って考えよう

人と「もの」との付き合い方（光村 5 上）

「ごみ問題ってなあに」（嘉田由紀子） 「大量に増えるごみ」

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は 4 年生の時、社会科「健康なくらしとまちづくり」でごみ問題について学習している。この単元では、ごみの処理方法、ごみ処理業に従事している方々の工夫や努力について学習した。また、今日、環境問題についての情報が数多くあり、児童は少なからず知識や興味をもっている。

説明的文章の読みについては、「サクラソウとトラマルハナバチ」で要旨をとらえることを学習した。各形式段落の内容をとらえたり、大きな段落のまとまりについて理解し、筆者の主張を読み取ることができるようになってきている。しかし、筆者の主張に対する自分の意見を述べられる児童はまだ少ない。また、筆者が自分の考えをどのように伝えようとしているか、その書き方に着目し、自分なりの考えをもって読んでいる児童も少ない。

伝え合うことについては、4 年生「『伝え合う』ということ」で、点字などの伝え合いの方法を調べたり、目的や相手に応じた話し方を工夫したりすることを学習した。しかし、まだ十分に定着しているとは言えない。

これらの児童の実態をふまえ、自分の考えをより説得力をもって相手に伝える書き方を学ばせるために、筆者の書き方について読解させたい。その上で、テキストを評価しながら読む学習活動に取り組み、児童の「伝え合って考える力」を高めたい。

#### (2) 教材について

「ごみは人が作り出すものである」ということを、ごみという「言葉」の切り口から考え、ごみ問題に対して国語科的アプローチをしている教材である。

資料「ごみ問題ってなあに」は、大きく 5 つのまとまりから構成されている。題名自体が問題提起となっているのが、これまで学習してきた説明文と違う点である。要旨は、「私たちが『不要』とみなすことで、ものはごみになる。何でもすぐにごみとして捨ててしまう今の社会では、ごみが増え続けている。江戸時代やマラウイの『もの』を生かし続けるための知恵と工夫は、ごみ問題を解決する重要な第一歩になるのではないか。」というものである。

また、「大量に増えるごみ」は、評価しながら読む力を高めるためのテキストとして用意した。要旨は、「私たちの生活は、一見豊かで便利に見えるが、このような生活を続けていてよいのだろうか。ペットボトルごみの増大や飢えに苦しむ人がいる中での食品ごみの増大。私たちは自分たちの行動を反省し、ごみをへ

らすために行動しなければならない。」というものである。

この2つの資料の文章構成を理解させた上で、それぞれの具体例の書き方のよさを熟考させることにより、評価しながら読む力を高めたい。

### (3) 読解力について

PISA 調査の結果から明らかになった課題を改善するために、文部科学省から読解力向上プログラムが示された。その観点とは、以下のようなものである。

(1) テキストを理解・評価しながら読む力を高める指導
①目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
②評価しながら読む能力の育成
③課題に即応した読む能力の育成
(2) テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める指導
①テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成
②日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
(3) 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実する指導
①多様なテキストに対応した読む能力の育成
②自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成
(出典 読解力向上に関する指導資料 東洋館出版社 2006年)

本単元では、「(1) テキストを理解・評価しながら読む力を高める指導」を目指す。特に、「②評価しながら読む能力の育成」に重点を置き、書き方のよさを読み取らせたい。ここで言う書き方とは、「筆者が自分の考えを伝えるための文章構成や内容、表現方法の工夫」ということである。その上で、文章構成の中の「内容」、特に「具体例」を観点としたクリティカル・リーディングを行い、読解力を高めたい。そして、本単元後半の「(2) テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める指導」につなげていく。そこでは、「①テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成」を重点とし、読解して身に付けた書き方を活用して書く力を高めたい。最終的には、「(3) 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実する指導」を目指すことになる。

「①多様なテキストに対応した読む能力の育成」、「②自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成」に取り組むことで、伝え合って考える力を高めたい。

### 3 単元の指導目標と評価規準

評価の観点	指導目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・筆者の書き方に興味をもち、活動を通して自分の考えを深めることができる。	・文章構成や内容、表現方法の工夫に興味をもち、活動に意欲的に取り組んでいる。
読む能力	・筆者の意図を理解し、書き方を評価しながら読むことができる。	・筆者の意図を理解し、文章構成や内容、表現方法の工夫を評価しながら読んでいる。
書く能力	・目的に応じて、学習した書き方を活用し、自分の考えを書くことができる。	・目的に応じて、学習した文章構成や内容、表現方法の工夫を活用し、自分の考えを書いている。
言語についての知識・理解・技能	・目的に応じた文章の書き方に気づくことができる。	・目的に応じた文章構成や内容、表現方法の工夫に気づいている。

4 単元の指導計画と評価規準（全15時間）

次	時	学 習 目 標	評 価 規 準		
			関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解・技能
一	1	・身近な生活から環境問題について調べてみたい課題を考えることができる。	・見通しをもって単元の学習に取り組もうとしている。	・「人と『もの』との付き合い方」の内容を読み取っている。	・環境問題が指す言葉を指摘している。
	2 3 4 (本時)	・2つの資料を読み比べ、それぞれの書き方のよさについて考えることができる。	・それぞれの書き方に興味をもち、意欲的に発表しようとしている。	・それぞれの文章構成や内容、表現方法の工夫について考え、自分の言葉で表現している。	・文章構成、内容、表現方法の工夫のもとになっている言葉を指摘している。
二	5	・資料を読み、課題解決に必要な情報を収集することができる。	・広い範囲から資料を集めて、調べようとしている。	・自分に必要な資料を読み、情報を取り出して考察している。	・資料の書き方から自分に有効な書き方を選んでいる。
	6 7	・情報を整理し、自分の書き方について考えることができる。	・書き方に興味をもち、意欲的に自分の書き方を考えようとしている。	・自分の文章に必要な情報、構成や内容、表現方法の工夫を読み取っている。	・資料の書き方から自分に有効な書き方を選んでいる。
三	8	・グループ毎に自分の書き方を発表し、アドバイスし合うことができる。	・友達の文章に対し、積極的にアドバイスしようとしている。	・発表者の意図、文章構成や内容、表現方法の工夫を読み取っている。	・友達の文章の意図、文章構成や内容、表現方法の工夫を指摘している。
	9 10	・目的に応じて事実と意見の述べ方を工夫し、効果的に文章を書くことができる。	・効果的な文章を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	書く能力 ・目的に応じて事実と意見の述べ方を工夫し、効果的に文章を書いている。	・目的に応じた事実や感想、意見の書き方を理解している。
	11 12 13	・書く目的や書き方を意識し、文章を書くことができる。	・読解して身に付けたことを生かして文章を書こうとしている。	・読解して身に付けた書き方を活用して文章を書いている。	・文章構成、内容、表現方法の工夫などを活用している。
	14	・友達の文章を書き方に着目して読むことができる。	・友達の書いた文章を真剣に読もうとしている。	・友達の文章から読み取った書き方の工夫を簡潔に書いている。	・意図、文章構成や内容、表現方法の工夫を指摘している。
	15	・友達の文章のよさを指摘し、学んだことを交流し合うことができる。	・単元を通して学んだことを意欲的に発表しようとしている。	・単元を通して学んだことを、自分の考えとして書いている。	・文章構成、内容、表現方法の工夫のもとになっている言葉を指摘している。

## 5 本時の指導

### (1) 目標

2つの文章を読み比べ、具体例の書き方を読み取ることができる。

### (2) 指導構想

まず、それぞれの文章構成がどうなっているかを読み取らせるために、教科書の資料と指導者が用意した資料の2つを提示する。提示する資料は、児童が読み比べやすいように、同じ形式のプリントにする。「ごみ問題ってなあに」は、「問題提起→説明→具体例1→具体例2→まとめ」、「大量に増えるごみ」は、「問題提起→具体例1→具体例2→まとめ」という文章構成をしている。2つの資料が似たような文章構成をしていることをおさえたい。

次に、具体例の書き方について読み比べる。「ごみ問題ってなあに」には、具体的な数値は書かれていない。しかし、このような生活をすればごみ問題が解決するというような、まとめに直結する具体例が書かれている。一方、「大量に増えるごみ」には、ごみ問題の解決策は書かれていない。しかし、現代社会の問題点を浮き彫りにする深刻な事実が書かれている。このそれぞれの書き方のよさを熟考させることで、評価しながら読む力を高めるとともに、自分が文章を書くために必要な読解力も高めたい。

後半では、それぞれの具体例の書き方について読み取ったことの中から、「自分の意見を伝えるためにはどちらの書き方がよいか」を考えさせる。読み手と書き手は表裏一体なので、自分が書き手になった場合を想定して熟考させることにより、児童の読解力は確かなものになると考える。また、お互いの考えを交流する場面を設定し、様々な考え方に触れさせることで、考え方の幅を広げたい。

### (3) 評価規準

評価の観点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法	○ A「十分満足できると判断される」 状況とその具体的な姿 ☆ Bを実現していない児童への手立て
関心・意欲 ・態度	・解決策となる具体例や事実を浮き彫りにする具体例に興味をもっている。	観察・発表	○解決策となる具体例や事実を浮き彫りにする具体例に興味をもち、何度も挙手して発表している。 ☆具体例に着目させ、どんな効果があるか一緒に考える。
読む能力	・2つの具体例の書き方が、「解決策となる例」と「事実を浮き彫りにする例」だということを自分の言葉で説明している。	記述の 確認	○2つの具体例の書き方が、「解決策となる例」と「事実を浮き彫りにする例」だということを自分の言葉で説明し、その効果についても言及している。 ☆資料の図表や板書を振り返り、書き方のよさに気付かせる。
言語についての知識・ 理解・技能	・「解決策となる例」と「事実を浮き彫りにする例」という2つの具体例から、自分の書き方に効果的な方を選んでいく。	記述の 確認 発表	○「解決策となる例」と「事実を浮き彫りにする例」という2つの具体例から自分の書き方に効果的な方を選び、その理由も書いている。 ☆どんな文章を書きたいのか聞き、その書き方に効果的な書き方をアドバイスする。

(4) 展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■読解力の向上に関わる留意点 ○評価
導入	1 文章構成をつかむ。 (1)「ごみ問題ってなあに」 (2)「大量に増えるごみ」  2 学習課題を知る。 2つの文章を読みくらべ、 具体例の書き方を考えよう。	3 3 3	■ 2つの資料の文章構成を確実に理解させる。  ■ 具体例に絞って考えていくことを確認する。
展開	3 課題解決の見通しをもつ。 (1) 観点の確認。 ・何のために書かれた具体例なのか。 ・具体例にはどんな効果があるのか。  (2) 自力解決。  4 2つの文章を比べて読む。 ・具体例の目的 ・具体例の効果 ・具体例と図表（絵・写真・グラフ）の関係 ・具体例とまとめとのつながり  5 学習のまとめをする。 ・自分が書き手になった場合、どちらの具体例の書き方をしたいか。  6 考えを発表し合う。	2  5 15 8 5	■ 具体例の書き方のちがいを読み取らせるための観点を明示する。      ■ これまでの児童の経験と結びつけながら考察させたり、お互いの考えを交流させたりする。 ○ 2つの具体例の書き方が、「解決策となる例」と「事実を浮き彫りにする例」だということを自分の言葉で説明している。 ■ 自分が書き手となった場合を考えさせ、効果的な書き方に気づかせる。 ○ 「解決策となる例」と「事実を浮き彫りにする例」という2つの具体例から、自分の書き方に効果的な方を選んでいく。 ■ お互いの考えを交流させ、考え方の幅を広げる。
終結	7 次時の学習内容を確認する。	1	■ 次時は様々な資料を読み、課題解決に必要な情報を収集することを伝える。